

平成 22 年 8 月 12 日

会社名 株式会社アールテック・ウエノ
問合せ先 ビジネスマネジメント部長 中村 宏司
電話番号 03-3596-8011

平成 23 年 3 月期第 1 四半期の業績に関するお知らせ

当社は、本日平成 23 年 3 月期第 1 四半期決算短信を発表しましたのでお知らせします。

当期における主な内容は以下の通りです。

経営成績について

・当期 (2010 年 4～2010 年 6 月)の業績は、売上高 935 百万円（前年同期比 101 百万円、9.8%減）、営業利益 260 百万円（同 29 百万円、12.7%増）、経常利益 258 百万円（同 29 百万円、12.6%増）、四半期純利益 163 百万円（同 165 百万円、50.4%減）となりました。

・レスキュラ®点眼液については、これまで遮光して冷所に保管する必要がありましたが、従来の薬の成分・効果を変えずに室温での保存が可能となる様、貯法の変更を行い、厚生労働省から承認を受けました。また、眼科医を対象とした緑内障の早期発見につなげるための眼底読影勉強会を積極的に開催し、製品説明会等を通じてレスキュラ®点眼液の販売促進活動を行っております。これらの施策により処方数の維持に努めておりますが、売上高の減少を抑えることが出来ず、また、大幅な薬価改定の影響を受けたこともあり、当第 1 四半期会計期間の売上高は 384 百万円（前年同期比 47.1%減）となりました。

・Amitiza®カプセルは、北米市場向けの在庫調整が一段落したと考えられることから、当第 1 四半期会計期間の売上高は 544 百万円（前年同期比 99.3%増）となりました。

【四半期実績推移】

(単位：千円)

期間	売上高	売上総利益	研究開発費	営業利益	経常利益	当期利益
2008/10/1 ~ 12/31	1,322,326	829,343	417,152	215,001	137,900	110,951
2009/1/1 ~ 3/31	1,100,331	703,219	469,930	40,647	52,343	34,329
2009/4/1 ~ 6/30	1,036,825	738,399	334,883	231,057	229,643	328,372
2009/7/1 ~ 9/30	1,001,821	682,451	376,877	103,956	96,718	53,812
2009/10/1 ~ 12/31	902,427	600,281	331,272	86,797	93,163	59,949
2010/1/1 ~ 3/31	1,221,454	782,663	319,864	307,186	313,243	224,648
2010/4/1 ~ 6/30	935,169	591,504	157,120	260,398	258,643	163,003
増減 (対前年四半期)	-101,656 -9.8%	-146,895 -19.9%	-177,763 -53.1%	29,341 12.7%	29,000 12.6%	-165,369 -50.4%
増減 (対直前四半期)	-286,285 -23.4%	-191,159 -24.4%	-162,744 -50.9%	-46,788 -15.2%	-54,600 -17.4%	-61,645 -27.4%

【事業別売上】

(単位：百万円)

	2010年3月期第1四半期 前年同期	2011年3月期第1四半期 当期実績	前期比
医薬品の製造販売	998,946	928,808	-7.0%
レスキュラ®点眼液	725,689	384,222	-47.1%
Amitiza®カプセル	273,257	544,586	99.3%
医薬品の研究開発 支援サービス	37,878	6,360	-83.2%
合 計	1,036,825	935,169	-9.8%

財政状態について

・当期末の財政状態は、流動資産 5,138 百万円（前期末 5,371 百万円）、固定資産 1,604 百万円（同 1,672 百万円）、流動負債 493 百万円（同 741 百万円）、固定負債 153 百万円（同 143 百万円）、純資産 6,095 百万円（同 6,159 百万円）で、自己資本比率は 90.4%（同 87.5%）でした。

・当期末の現金および現金同等物は、2,854 百万円（前期末 3,196 百万円、341 百万円減）となっております。

経営に関する最新情報（平成 22 年 4 月 1 日から現在まで）

・平成 22 年 4 月 5 日、当社は、ラタノプロスト点眼液 0.005%の国内製造販売承認の申請を行ったことを発表しました。レスキュラ®点眼液 0.12%とは作用機序が異なるラタノプロスト点眼液 0.005%を当社の緑内障・高眼圧症治療薬としてラインナップすることにより、病態によるプロスタグランジン関連薬の使い分けが可能になります。選択肢が増えることにより、より多くの患者様の治療に貢献したいと考えております。また、今後海外市場においては、先発医薬品と比べてより工夫を加えた当社のラタノプロスト点眼液 0.005%の販売提携先を模索しながら製造販売承認の取得を目指してまいります。

・平成 22 年 4 月 28 日、当社は、液体充填カプセルによる医薬品、治験薬ならびに健康食品などの受託製造業務を開始することを発表しました。国内外を問わず、脂溶性・難溶性の薬剤の製剤化や治験薬等の製造サイトの選択に苦慮している医薬品企業や新たな商品開発をお考えの健康食品企業と連携することで、当社のビジネス展開の基盤を拡げることにも可能になると考えております。

・平成 22 年 5 月 6 日、当社は、2009 年 12 月にレスキュラ®点眼液（イソプロピルウノプロストン点眼液）の製造について米国食品医薬品局（以下 FDA）による cGMP への適合性に関する審査を受け、当社の三田工場にて米国向けの点眼液を製造することについての認可を受けたことを発表しました。

・平成22年6月3日、当社は網膜色素変性の治療薬として開発中のUF-021点眼液（製品名 オキュセバ™）の第2相臨床試験が完了したことをお知らせいたしました。また、平成22年7月15日には同臨床試験の詳細をお知らせし、中心部網膜感度が悪化する患者様の数を有意に減らすことが判明いたしました。

・平成22年7月2日、当社は、Novartis Pharma AGとの間でレスキュラ®点眼液（一般名 イソプロピルウノプロストン）の海外（台湾・韓国・北米地域を除く）における開発および商業化権に関するライセンス契約を締結しておりましたが、同契約を解消することに両社が合意しました。

・平成22年7月22日、当社は、レスキュラ®点眼液0.12%の貯法の変更について厚生労働省から承認を受けました。これまでは遮光して冷所（1~15℃）に保管することが必要でしたが、従来の薬の成分、効果を変えずに遮光して室温での保存が可能となりました。

・平成22年8月12日、当社は、田辺三菱製薬株式会社と遺伝子組換え人血清アルブミンを有効成分とするドライアイ治療用点眼液（開発コード：RU-10）の日本における開発・事業化に関するライセンス契約を締結しておりましたが、この度同契約を解消いたしました。今後はアルブミンの新たな供給先を探索し、アルブミンを有効成分としたドライアイ治療用点眼液の開発を継続する意向です。

本日、平成 23 年 3 月期第 1 四半期決算短信および業績予想の修正について、経営陣を代表して当社代表取締役社長 真島行彦は、以下のコメントを發表しました。

「当社は本日、平成 23 年 3 月期第 1 四半期決算短信を發表しました。業績については計画に対し順調に推移しております。

また、本日のプレスリリース『特別利益の発生および業績予想の修正に関するお知らせ』のとおり、兼ねてより交渉を続けておりました田辺三菱製薬株式会社とのライセンス契約を解消し、これまで中断しておりましたドライアイ治療用点眼液の開発を進めてまいります。他の開発パイプラインにつきましてもより積極的に研究開発投資を行い、1 日でも早く上市すべく邁進してまいります。」

以 上